

冬旅こそキャンピングカーの本領発揮!!

安全&快適に 楽しむポイント解説

雪道の運転は慎重に 路面の状況を常に確認

冬の走行で注意しなければいけないのは、雪道での走行。特にスキー場へ行く時、ゲレンデ近くは道路が整備されているが、峠を超える時など、予想を超える積雪に見舞われることもある。キャンピングカーを借りる時は、スタッフに行き先を伝え、おすすめの道順などを聞いておくのがいいだろう。雪のある地域でキャンピングカーを借りるのであれば、しっかりと雪対策されているが、都心部からロングドライブで雪のある地域に行く時などは注意が必要。スタッフに相談し、しっかりとした冬対策をしておくことが大切。



雪や氷をしっかりとつかむ 冬の走行にスタッドレス

スキー旅行などに利用するのであれば、レンタルキャンピングカーがスタッドレスタイヤを履いているかを確認しておこう。スタッドレスタイヤを履いているからといって過信は厳禁。雪道や凍結した道路の表面をタイヤがしっかりとつかんでいるかをチェック。最初は難しいが、走り出した時やブレーキを踏んだ時の感覚で、その効果を確認できる。古いスタッドレスタイヤなどは凍結道路ではしっかりとしたグリップを発揮できないので注意が必要だ。

スピードを抑えて タイヤと路面をチェック

圧雪道路であっても、雪の下が氷で覆われていることもある。日陰のカーブではワダチ部分が凍っていて、ステアリングを取られたりもするので、スピードは控えめに。今回も、クルマを停めて、道路をよくチェックしてみると、氷の上に薄く雪が積もっている状態だった。「こうゆう場所は特に分かりづらいから」とアドバイスする高森さん。さすが雪国のキャンピングカービルダーらしく、雪には慣れている。



日中でも日陰に入ると道路が凍っていることがある。不安を感じたら安全な場所にクルマを停めて、路面の状況を確認して、安全な走行が可能か判断しよう。キャンピングカーは車両が重いので、滑り始めると止まりづらいので、無理はしないように。

キャンピングカーは寒い冬にも強いのか？

キャンピングカーのベストシーズンは1年中。冬でも多くのユーザーがキャンピングカーを楽しんでいる。普通のクルマでは寒くて、エンジンを切ったたらずぐに底冷えしてくような寒さを感じてしまうが、キャンピングカーはしっかりとした断熱処理が施されているクルマが多いので、室内の気温をキープしやすい。また、冬のキャンピングカーには強力なFFヒーターがあり、どんな極寒の場所であっても快適な環境が手に入れられる。キャンピングカーは寒い冬にも強い。だからこそ、寒い冬が来ても、キャンピングカーを利用して、旅行に行きたくなってしまふのだ。



冬の旅&車中泊を可能にするキャンピングカー装備

ポカポカの環境を提供 FFヒーターで快適空間に

キャンピングカーの暖房設備で有名なのがFFヒーター。燃焼部分が独立し、燃焼に関する吸排気が室内の空気を経由しないので、キャンピングカーなどの密閉された空間で使用することができる。しかも、その暖房効果は高く、真冬であっても室内はポカポカ。FFヒーターの吹き出し口は右の写真のような形になっていることが多い。吹き出し口の前には物などを置いておかないようにして、暖かい空気がスムーズに流れるようにしておこう。



⚠️ FFヒーター利用時は、排気管付近の雪をチェック!!

FFヒーターの使い方は簡単。スイッチを入れるだけで、数分後に暖かい空気が吹き出してくる。しかし、利用する前にチェックしなければいけないことがある。それは、車外に取り付けられたFFヒーターの排気管が雪などで覆われていないかを確認すること。もし、雪などに覆われていると、不完全燃焼や排気ガスが車内に逆流する原因に。夜通しFFヒーターを使うのであれば、雪が吹き溜まる場所に排気管が出ていないかなども確認しておこう。場合によっては、雪をどけたり、キャンピングカーの位置を移動しなければならない。

普通車とはボディが違う 断熱構造&施工で快適空間に

キャンピングカーを作っているビルダーによって、その断熱の方法は違うが、快適な空間を提供するために、各社がいろいろな方法で断熱処理を行っている。例えば、アルミパネルと断熱材などを組み合わせた高断熱パネルを利用する構造はヨーロッパのキャンピングカーでも多く採用されている手法だ。

特殊な断熱素材を塗ったり、吹きつけたりする方法もある。バンコンなどクルマの車体をそのまま利用する場合、室内の壁とクルマのボディの間に断熱処理をしなければならない。その時、住宅などで利用される断熱材を使ったり、特殊な断熱素材を吹きつけることがある。この手法も各社独自の方法がある。



※ メーカーや車両により、断熱加工のされていないモデルもございます。詳しくは販売店にお問い合わせください。